コラボ・スクール事業

自治体名

学校数

岩手県上閉伊郡大槌町

小学校 5 校 中学校 2 校 高校 1 校

プレハブ教室、大念寺

震災後の地域の状況・仮設住宅数

町民の約 1 割が死亡・行方不明となり、住倒壊率は被災地の中で 3 位の 64.6%です。現在も、町民の約 3 分の 1 が仮設住宅で暮らしています。

<取組名> 放課後学校 コラボ・スクール大槌臨学舎

(連携している団体等・大学の名称) 実施形態 自治体単独実施 団体等との連携実施 大学との連携実施 (該当に〇) 実施主体• コーディネーター数 ボランティア延べ人数 年間実施日数(回数) 活動場所 上町ふれあいセンター(公民館)、小鎚神社、 場所等 7名 約80名 約 150 日

がべ※該当する内容に○

70 301 3 0						
学校支援	学習支援	部活動指導	美化·環境整備	登下校指導	学校行事・その他	
					()
学校と地域の	復興学習	防災教育	伝統文化·芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他	
協働学習	0	0	0		()
放課後等支援	学習支援	体験·交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他	
	0	0			()
家庭教育·	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他	
保護者支援					()
地域課題に応じた	高齢者支援·世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他	
学習·交流	0	0			()

震災によって奪われた子どもたちの学習環境を保障し、学びを通じた地域コミュニティの再生を実現するために、放課後学校「コラボ・スクール」を実施しました。コラボ・スクールでは、NPOカタリバのスタッフの他、町内で震災前から塾を経営されてきた先生方や学生ボランティアが子どもたちに勉強を教えており、子どもたちの放課後の居場所機能を担っています。

平成 23 年度は 85 名の中学 3 年生を対象としていましたが、平成 24 年度は対象学年を拡げ、中学 2~3 年生 140 名、高校 1 ~3 年生約 60 名の合計約 200 名を受け入れました。発展、応用、基礎の 3 クラスを設定し、生徒の学力に合わせた指導を行っています。発展クラスは集団授業を行い、生徒たちは応用問題や、入試の過去問題レベルの問題に取り組みました。応用・基礎クラスでは、生徒のレベルに合った教材を使いながら、4、5 人のグループ学習を行っています。すべてのクラスで、生徒たちがより身近に感じやすいテーマを使い、それぞれの学習状況にあった教材を作成、使用しました。

コラボ・スクールでは、学習指導だけでなく、地域の方々の協力を得ながら復興学習、防災教育、伝統文化・芸能等、世代間交流にも取り組んでいます。高校生自身が町の復興課題の解決に取り組むプロジェクト型学習を行っており、現在は「高齢者を元気にする」「震災の記憶を風化させない」「子どもの遊び場をつくる」等のプロジェクトが進行しています。防災教育、伝統文化・芸能については、学校とも連携しながら伝統芸能発表会の調べ学習、練習や発表の指導を行ったり、パソコンを使った防災シュミレーションゲームを作成・提供をしました。

現地の自治体には、実施場所の確保も含め様々な形でご協力をいただいています。学校の先生方には、開講告知のプリントの配布、授業内容の精査、生徒指導の相談、学級閉鎖などの緊急連絡等、子どもたちに関わるあらゆることについてご協力をいただきました。受験直前には保護者の方から、生徒一人一人への手作りのお守りや、栄養のあるものをと夕飯を作っていただくなど、様々な形で協力いただきました。また、プレハブ教室の整備にあたっては地域の建設会社の方々にもご協力をいただくなど、まさに様々な立場の人々がコラボレーションをして成り立っています。







(右)プロジェクト学習における高校生と地域の方々の打ち合わせ

取組の変遷

◇被災による課題

準備段階

仮設住宅や避難所では、子どもたちが勉強するための落ち着いた環境、十分なスペースが確保できません。学校外で安心して 学べる環境が失われており、落ち着きや気力を失ってしまう生徒も多くいます。

◇住民等からの要望・必要な取組

過去に行った保護者アンケートによると、大槌町内の小中学生の半数以上が参加を希望していました。 開校前は、「自宅での学習時間が減った」「友達と一緒に勉強できず、意欲が感じられなくなった。」等の声が聞かれました。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

【行政】

大槌町や教育委員会には、学校との橋渡しをしていただいています。公民館の貸し出しや、プレハブ教室の無償貸与等、建物がない大槌町内での重要課題である、活動場所をご提供いただいています。

【学校】

随時情報共有をさせていただいています。学習面や、生徒指導面についても何か問題がある際には、学校側の対応を確認、先生からのアドバイスをいただいた上で、対応するようにしています。

【保護者】

土日の生徒たちの送迎や、お守り作り・夕飯作り等の生徒への励まし等、様々な面でご協力いただいています。

【地域住民】

地域の神社やお寺の広間を教室として無償で貸して頂いています。また、プロジェクト型学習では、建設会社の方や、仮設商店街の方、お寺の住職の方等、様々な方々にご協力をいただいています。

【講師・ボランティア】

授業や自習室での学習指導、プロジェクト型学習のアドバイス・サポートを行っています。

Web サイトやソーシャルネットワークを活用し、全国各地・世界中から募集しています。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

本事業の特徴は、行政・学校・保護者・行政と情報共有を行いながら子どもたちを支援することで、地域コミュニティの再生に寄与していることです。その他の工夫としては、1)継続的な支援、2)地元の方の雇用、3)全国からのボランティアなどが挙げられます。震災から1年以上が経ち、徐々に被災地に対する関心が薄れてきている一方、1)継続的な支援は子どもたちの学習支援や心のケアを十分に行う上で欠かせません。2)地元の方の雇用は、地域コミュニティを活性化する上で重要です。3)全国からのボランティアは、継続的な支援を実現するだけでなく、様々なキャリア・価値観に触れる機会を子どもたちに提供し、彼らが将来に希望を持つきっかけにもなります。また、被災地に対する地域外の関心を絶やさないという点でも重要です。



◇これまでの取組による成果

調査によると、コラボ・スクールに通っている子どもたちの学習時間は飛躍的に向上しています。震災以前や震災 直後と比べると、コラボ・スクール開校後は中学生の放課後の学習時間が2倍以上に伸びました。その甲斐あって、 平成24年度も多くの中学3年生が志望校に合格し、希望を持って4月からの高校生活を迎えることができました。子 どもたち自身も、勉強できる場所があることや友達・ボランティアと会えることに喜んでいます。行政・学校・保護 者の方々から「地域全体で支え合う雰囲気を作ることができた」「様々な人との出会いから、子どもたちに良い影響を 与えてもらっている」という声を、教えている塾講師の方々からは、「震災で仕事を失ったが、もう一度チャンスをも らった」という声をいただきました。

平成 24 年度にコラボ・スクールに通った中学生の数は、大槌町内の対象学年の約6割~7割にあたります。そのうち約半数が仮設住宅に暮らす子どもたちです。放課後の学ぶ環境が整っていない子どもたちに「安心して勉強できる場所」を提供できたことは、大きな成果です。また、高校生たちは復興学習を通じて主体性、物事を前に進める力、地域の大人を巻き込み恊働する力を身に付けることができました。これらの高校生の取り組みは、住民同士の交流が少なくなってしまった地域の方々に交流の場を提供することで、大槌町内の活性化にもつながっています。「仕事の合間に高校生たちの議論に参加し相談に乗ることが、普段の生活からは受けない刺激になり、張り合いがでる」という地域の声もいただきました。

◇課題や今後の展望

生徒の人数が増えたことにより、教室や自習室の場所を確保することが難しくなってきています。特に 1〜3 月の受験時期には、神社・プレハブ教室・公民館内の調理室や廊下も使い、どうにか場所を作りました。今後は十分な場所を確保することが課題です。また、中長期的には本事業をどのように地域に引き継いでいくかということも課題となります。生徒の学習環境に対するニーズはなくなることはありませんが、大槌町における復興の計画や進捗を見定めながら、慎重に議論していく必要があると考えています。